



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「怠け者よ、アリのところに行って見よ。
その道を見て知恵を得よ」

聖書(箴言6章6節)

牧師 河合裕志

怠け者とはどういう者を指すのだろう。
「怠け者よ、いつまで横になっているのか。いつ眠りから起き上がるのか。しばらく眠り、しばらくまどろみ、しばらく手をこまぬいて、また横になる」(9節)。こういう者のこと。要するに働こうとしない者。その者はアリに学べ、と。

「アリには首領もなく、指揮官も支配者もないが夏の間にパンを備え、刈り入れ時に食糧を集める」(7~8節)。アリは社会性のある昆虫と言われる。それぞれの役割をもったアリたちで群れをつくっている。少数の女王アリは産卵に当り、多数の働きアリは食糧の調達を行う。兵隊アリは狩りや巣の守りを担う。よく出来たもの。確かに一人威張って命令ばかりして何も働かないアリはいないみたい。各々がせっせと働いている。夏の暑い間も冬に備えて食糧集めに余念が無い。

そうしないで毎日ブラブラしているとどういうことになるか。「貧乏は盗賊のように、欠乏は盾を持つ者のように襲う」(11節)。そんなことにならないように勤勉であれよと作者は勧めている。そういえばイソップ物語にも「アリとキリギリス」という似たような話があった。怠惰を戒める教えは普遍的とも思われる。

イエスは「わたしの父は今もなお働いて

おられる。だからわたしも働くのだ」と言っている(ヨハネ5・17)。イエスの父は天地の創造者、創造後も天地の保持に当たっている。だからわたしも日々福音宣教や病人の治療行為に努めるのだ、と。

パウロも「働きたくない者は食べてはならない」(Ⅱテサロニケ3・10)と言って勤勉を勧めた。この言葉は「働かざる者は食うべからず」との文語訳で広まったけれどこの訳は要注意。これだと働かない者は食うな、ということになりこれはとんでもないこと。精神的肉体的にハンデがある、高齢である場合には働きたい思いはあってもこれは難しいこと。

それから勤勉はよいことだけれど働きづらくめではいけない。適当に休息を取らねば。「六日の間は働いて、七日目は主の安息日であるからいかなる仕事もしてはならない」(出エジプト記20・9~10)。日曜日は安息日。心身を休め礼拝のひと時を持つことが望まれる。今日では土曜休日も一般化している。結構なこと。基本は勤勉ということだけれど休みをきっちりとして肉体を休め、精神生活を豊かにし、人生をエンジョイすることは望ましいこと。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時~7時